

報告事例番号①

1 組織強化によるナシ産地の活性化 ～120年の歴史ある産地復興を目指す～

計画年度：平成30～令和2年



東部農業事務所普及指導課

明和町の梨産地の成り立ち

2

明和町は群馬県の東端に位置し、町の南に沿って流れる利根川が過去にたびたび氾濫したことから、水はけが良く肥沃な土壌が広がっている。この土質が果樹生産に適していたことから、明治の初め頃にナシ生産が始まり、120年の歴史を重ねてきた。

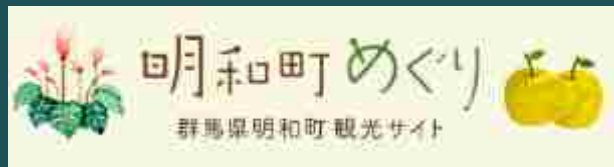


地域の特産品として・・・

3

明和町では、町の特産品としてナシを位置づけ、PR活動や各種補助事業などさまざまな支援を行っている。

町ホームページでPR



町内各所で看板等でPR



ところが・・・

課題設定の背景及び理由

4

歴史と実績のある明和の梨。しかし、近年では担い手の不足から産地規模は大きく減少している。

最盛期(昭和40年代)

生産者 100戸

栽培面積 40ha



平成29年

生産者 24戸

栽培面積 10ha

120年の歴史のある産地が存亡の危機・・・



伐採されていくナシ園・・・



ナシ街道にはナシ園がちらほら程度・・・

そこで、町や生産者団体と協力し、産地の復興を目指し各種支援に取り組んだ。

これまでの取組と成果（～H29年度）

5

1 ナシ産地構造改革協議会の設置（H17年～）

- ・産地構造改革計画を策定、ビジョンを共有化
- ・安心してナシ園を貸せる体制を作る



2 新規参入者受入れの研修開始（H21年～）

- ・就農マニュアル作成、支援農家制度を設置。
- ・支援農家で研修し、2名が就農！



3 樹体ジョイント仕立栽培の導入（H26年～）

- ・早期成園化を目指した新栽培方法
「樹体ジョイント栽培」モデル園を設置



支援事項と解決手法 (H30～R2年度)

6

1 新規担い手の確保・育成

- ・ 新規参入者への経営支援
- ・ 研修体制の強化

2 新技術の導入支援

- ・ 樹体ジョイント仕立ての技術改善と普及推進
- ・ 病害虫対策による品質向上
- ・ スマート農業の実証

3 法人組織の立ち上げと運営支援

- ・ 法人立ち上げ支援
- ・ 法人の運営支援

到達目標

7

項目	H29年度 (現状)	<u>R2年度</u> <u>(目標)</u>	特記事項
新規担い手数	2人	<u>5人</u>	毎年1人、3年で3人をさらに確保したい！
樹体ジョイント仕立面積	0.9ha	<u>1.5ha</u>	ジョイント仕立てによる新植を推進！
ナシ栽培面積	10ha	<u>9ha</u>	栽培面積の減少をなんとかとしても食い止める！

活動経過

1 新規担い手の確保育成

8

新規参入者の栽培・経営支援

- ・栽培を始めて日が浅く技術が不安定
- ・ベテランの先輩方に今更聞けない・・・そこで！



若手グループの勉強会開催

- ・明和町がナシを地域特産品に認定。積極的に支援を展開している。より効果的な支援が求められている・・・そこで！



町と連携し、各種補助事業等の効果的導入を支援

研修体制の強化

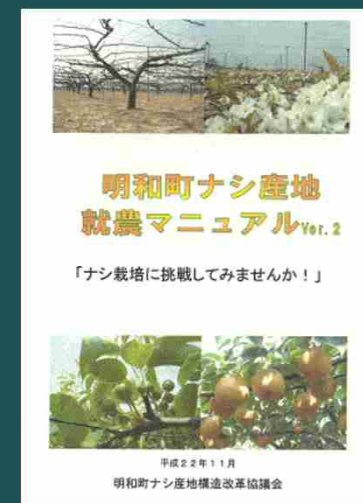
- ・既存生産者に対して担い手育成の重要性を知ってもらいたい・・・そこで！



担い手確保研修会の開催

- ・「就農マニュアル」は作成済みであるが、見直しも必要・・・そこで！

就農マニュアルを適宜見直し、使えるマニュアルに



活動経過

2 新技術の導入支援

樹体ジョイント仕立ての技術改善

課題：樹体ジョイントは急激に曲げると枝が折れやすい



幹折れを軽減する「斜立ポット育苗」の実証



病害虫対策による品質向上

課題：温暖化でハダニが増加。農薬だけでは防除しきれない



化学農薬だけに頼らない、天敵利用による総合防除を推進



ハダニ類を捕食するミヤコカブリダニ



スマート農業の実証

課題：注目されている「スマート農業」について、実際の効果わからない



導入検討会を開催し、生産者目線で効果を確認



アシストスーツ



非破壊糖度計

3 法人組織の立ち上げ支援

H30年3月：**新規参入者**が中心となり「梨法人化協議会」を設立



会議や視察を重ね、法人設立の目的を明確化し、「法人設立は必要」と意見が一致！



他県の大規模ナシ園視察
(H30年11月)



会議はいつも長時間だった・・・

【導き出した法人化の目的】

- 販売力強化（共同販売所の建設・ナシのブランド化）
- 農作業の効率化（積極的な新技術導入）
- 担い手の育成（積極的な研修生の受け入れ）

H31年2月28日：「農事組合法人梨人（なしんちゅ）」を4戸（5名）で法人登記申請。

活動経過

11

4 法人組織「(農)梨人」の運営支援

運営会議への参加・助言

県内外の他産地や他品目の情報、新技術の情報などを随時提供している。



白熱する運営会議

直売所の運営支援

事業利用して建設した直売所「なしの駅」の運営やPR活動を支援している。



昨年完成した直売所「なしの駅」

結果

12

新規担い手数

仁シヤル	出身地	研修期間	就農時期	栽培面積	備考
A さん	大阪府 (新規参入)	H23.1～ H24.3	H24.4	77a	・認定農業者 ・(農)梨人代表 ・樹体ジョイント37a
H さん	みなかみ町 (新規参入)	H26.4～ H28.3	H28.4	48a	・樹体ジョイント30a
Y さん	東京都 (新規参入)	H28.4 ～ H30.3	H30.4	41a	・(農)梨人会員 ・樹体ジョイント30a ・天敵導入
K さん	明和町 (後継者)	H29.4 ～ H31.3	H31.4	57a	・(農)梨人会員 ・樹体ジョイント20a ・天敵導入

- ◆ これまでの2名に加え、さらに2名が研修を終え就農、
合計4名の担い手を確保!

樹体ジョイント仕立の面積推移

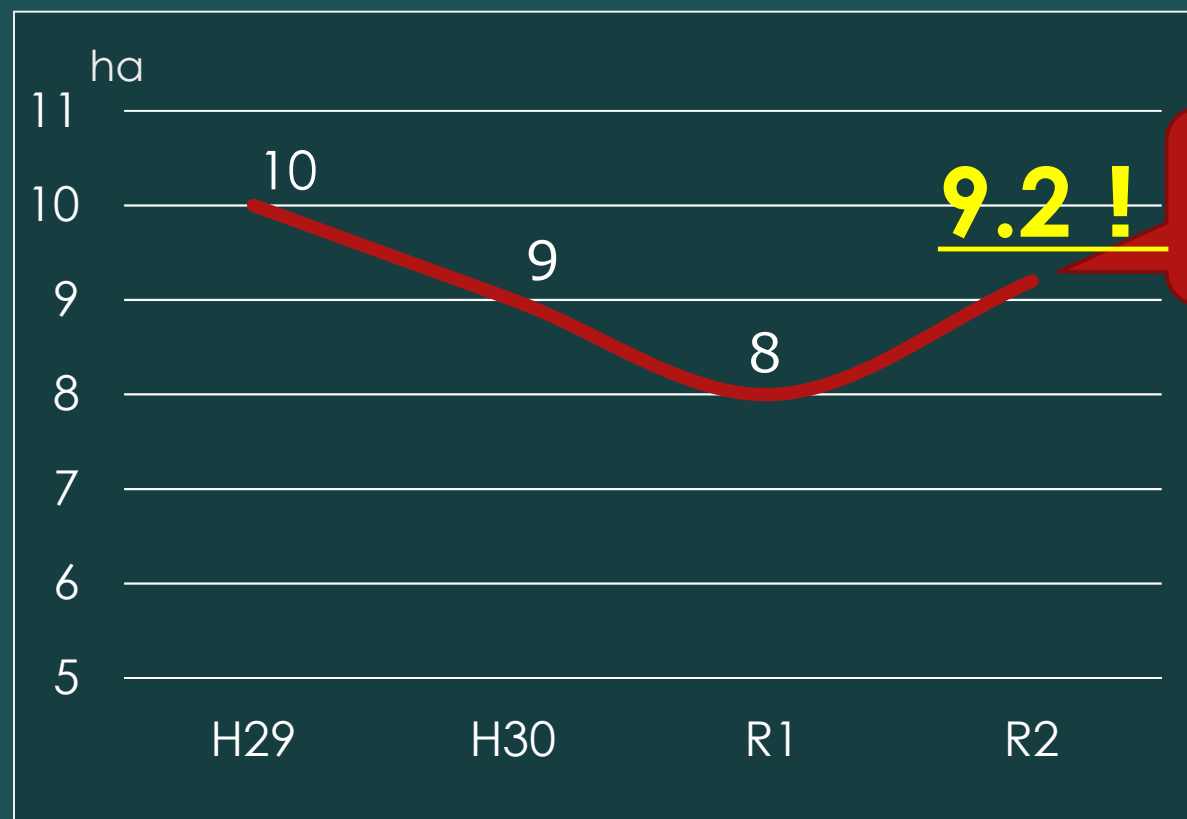


目標までは届かなかったが、面積は拡大傾向！

結果

14

ナシ栽培面積の推移



減り続けてきた面積がついに増加に！

**新規就農者の新植増加により、
R2年からナシ栽培面積は増加に転じた！**

到達目標に対する結果

15

項目	H29年度 (現状)	<u>R2年度</u> <u>(目標)</u>	R2年度末の実績
新規担い手数	2人	5人	<u>4人</u> <u>概ね目標達成!</u>
樹体ジョイント仕立面積	0.9ha	1.5ha	<u>1.17ha</u> <u>概ね目標達成!</u>
ナシ栽培面積	10ha	9ha	<u>9.2ha</u> <u>目標達成!</u>

残された課題と今後の対応

16

(1) 担い手の継続的確保

ナシ産地を維持するためには、担い手を継続的に育成していかなければならない。現在の4名に加えて、さらに毎年1～2名を確保できるように取り組む。

町と連携した就農相談・移住相談の実施による新規参入者の呼び込み、研修制度のさらなる充実、地域住民への産地の理解促進を行う。



明和町との連携
(明和町HPより)



研修制度の充実



地域農業の理解促進

残された課題と今後の対応

17

(2) 「(農) 梨人」さらなる飛躍への支援継続

新たに立ち上がり、勢いのある「(農) 梨人」を産地振興の切り札と位置づけ、様々な振興を図っていく。

当面は、販売ブランドの定着化（プレミアムブランド「AKARI」の栽培・販売支援、海外への輸出支援）を目指し、法人運営の安定化を図る。



(農) 梨人メンバー 梨人HPより



看板ブランド 「AKARI」は、超高品質を掲げている

(3) スマート農業など新技術の積極的導入推進

栽培効率向上や品質向上技術に加え、自然災害対策、盗難防止対策、感染症予防対策など、様々な技術が開発されている。情報を収集・精査し、生産者目線での実証を行った上で、導入を進めていきたい。



静電受粉機



農業用ドローン



ロボット除草機



防犯カメラ